

会話を記録に残す

普段何気なく話している会話の中に、その人らしさが感じられることはよくあります。よくお話される利用者の場合、職員や他の利用者との会話によって、その人が好きなものごと、食べ物、ふるさとなどが自然とわかってきます。逆に、寡黙な利用者の場合、そういったことがなかなかわからないかもしれません。

テーマを決めて写真を持ち寄り、全員が会話に参加する共想法プログラムは、利用者をよりよく知るきっかけとして活用できます。介護施設に長期間入居されている方を対象に実施したところ、職員が初めて見た写真、初めて聞いた話があり、利用者の新たな一面を知ることができたと伺いました。プログラムには一部の職員が立ち会うことになりませんが、そこで話されたことを他の職員や利用者の家族と注意深く共有することで、よりよい介護に役立てることができると考えられます。

日常会話において、誰が何を話しているかは案外はつきりしないものです。一方、写真を用い、話し手と聞き手を明確にする共想法では、誰が何の話をしたかを比較的に記録に残しやすいのです。

今回は、写真記録用紙、会話記録用紙、要旨コメント記入用紙の3種類の用紙を用い

て、会話を記録し共有する方法を解説します。その後、参加者の記憶に残ったかどうかを確かめる方法について述べます。

写真の題名を記録する

共想法では、決められたテーマに沿った写真を参加者が持ち寄り、あらかじめシステムに登録しておきます。このため、事前にある程度話される内容を把握しておくことができます。そこで、写真を提出してもらう段階で、その写真の題名を聞き、写真記録用紙に記入していきます。週1回ずつ3週間、3つのテーマで共想法を実施した際の、写真記録用紙への記入例を表1に示します。

第1週は好きなものごと、第2週はふるさと・旅行・近所の名所、第3週は健康・食べ物です。テーマの行の下に、実施日時を記入します。各行に、参加者氏名と参加者ごとの実施担当者名を記入したうえで、写真が参加者から実施者に届き次第、写真の題名を追加していきます。このようにすることで、実施者が、参加者からの写真の集まり具合を確かめながら準備できるとともに、プログラム全体における会話の流れを記録できます。

実際には6名が参加しましたが、表1で示しているのはそのうちの3名分です。柳沢さんと大橋さんは70代後半、菱田さんは80

会話を 用いた 写真を 記憶し 記録する

第5回

前回は、会話が苦手な人も会話に参加できるよう、①テーマを決めて写真を持ち寄り、話し手の写真を映し出し、②時間と順序を決め、話し手と聞き手を明確にする、という2つの特徴をもつプログラム「共想法」の準備と実施手順について述べました。今回は、共想法プログラムにおいて参加者が会話をよく聞いて記憶したかどうかを確かめるとともに、実施結果を記録する方法について紹介します。

東京大学 人工物工学研究
センター 准教授、
NPO法人ほんのぼの研究所
代表理事、
科学技術振興機構
さきかけ研究者
●大武美保子